大船渡市林野火災が喚起したあらたな課題と今後の林野火災対策

関澤 愛
NPO法人日本防火技術者協会理事長
(元東京理科大学 教授)

はじめに ……大船渡市林野火災のインパクト

- 令和７年2月26日に大船渡市で発生した林野火災は、3,370haに及ぶ我が国の林野火災としては1963年以降最大の約60年ぶりの大規模火災となった。また、林野地域だけでなく市街地にまで延焼が及び、焼損家屋226棟、死者1名という被害を生じ、大船渡市綾里地区の住民の多くが避難を余儀なくされた。
- この火災を受けて、総務省消防庁、林野庁をはじめとする関係各省庁、有識者、消防機関等が参画する検討会が設置され、今後の消防防災対策のあり方などについて検討を行ない、林野火災の予防を目的とした林野火災注意報の創設など林野火災における予防･警報のあり方、常備消防や消防団の体制強化、住民避難など、大規模林野火災に備えた多様な消防防災対策のあり方が取りまとめられた。
- 本講義では、国の検討会の報告書の内容に沿って、今回の大船渡市林野火災の被害の概要と特徴、ならびにこの火災を踏まえての今後の林野火災対策のあり方について解説を行う。

岩手県大船渡市林野火災の概要

※ 消防庁長官による火災原因調査の報告書より

1 発生日時等

- 発生時刻：2025年2月26日（時分は不明）
- 覚知時刻：　同　　2月26日13時02分
- 鎮圧時刻：　同　　3月9日17時00分
- 鎮火時刻：　同　　4月7日17時30分

2 出火場所

岩手県大船渡市赤崎町合足地内

3 出火箇所と出火原因

出火箇所は、最初に火炎が確認された付近の建物の敷地と山林の境界付近。出火原因については、電気設備、電気配線、取灰及びたき火等に起因する出火の可能性はなく、煙突の火の粉を起因として出火した可能性が認められるが具体的な発火源、出火に至る経過及び着火物の特定には至らないとされている。

4 被害状況

- 延焼範囲（2月26日からの火災の延焼範囲）：約3,370ha
- 焼損棟数：住家90棟（内全焼54棟）、住家以外136棟（内全焼121棟）の合計226棟
- 死傷者数：死者1名、負傷者なし

NASAの赤外線画像による焼損範囲の推移

(火災情報サイト「FIRMS」より)

https://www.yomiuri.co.jp/national/20250228-SYT8T6376146/
https://firms.modaps.eosdis.nasa.gov/map/#d:24hrs;@141.86,39.05,12.71z

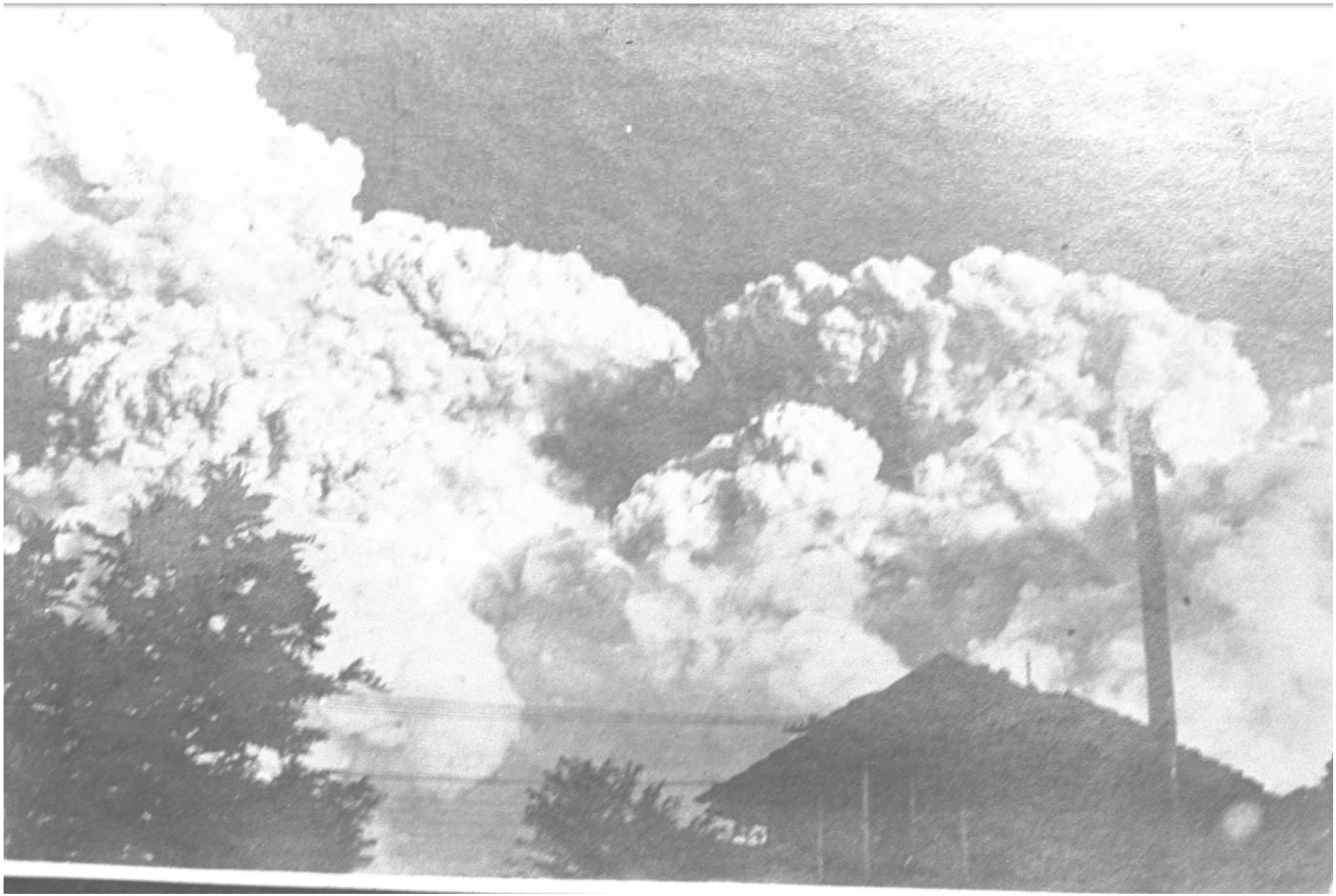
岩手県大船渡市で発生した山林火災について、米航空宇宙局（NASA）が人工衛星の画像分析に基づいて公表している火災情報サイト“FIRMS”で火災の広がりを確認できる

2月26日

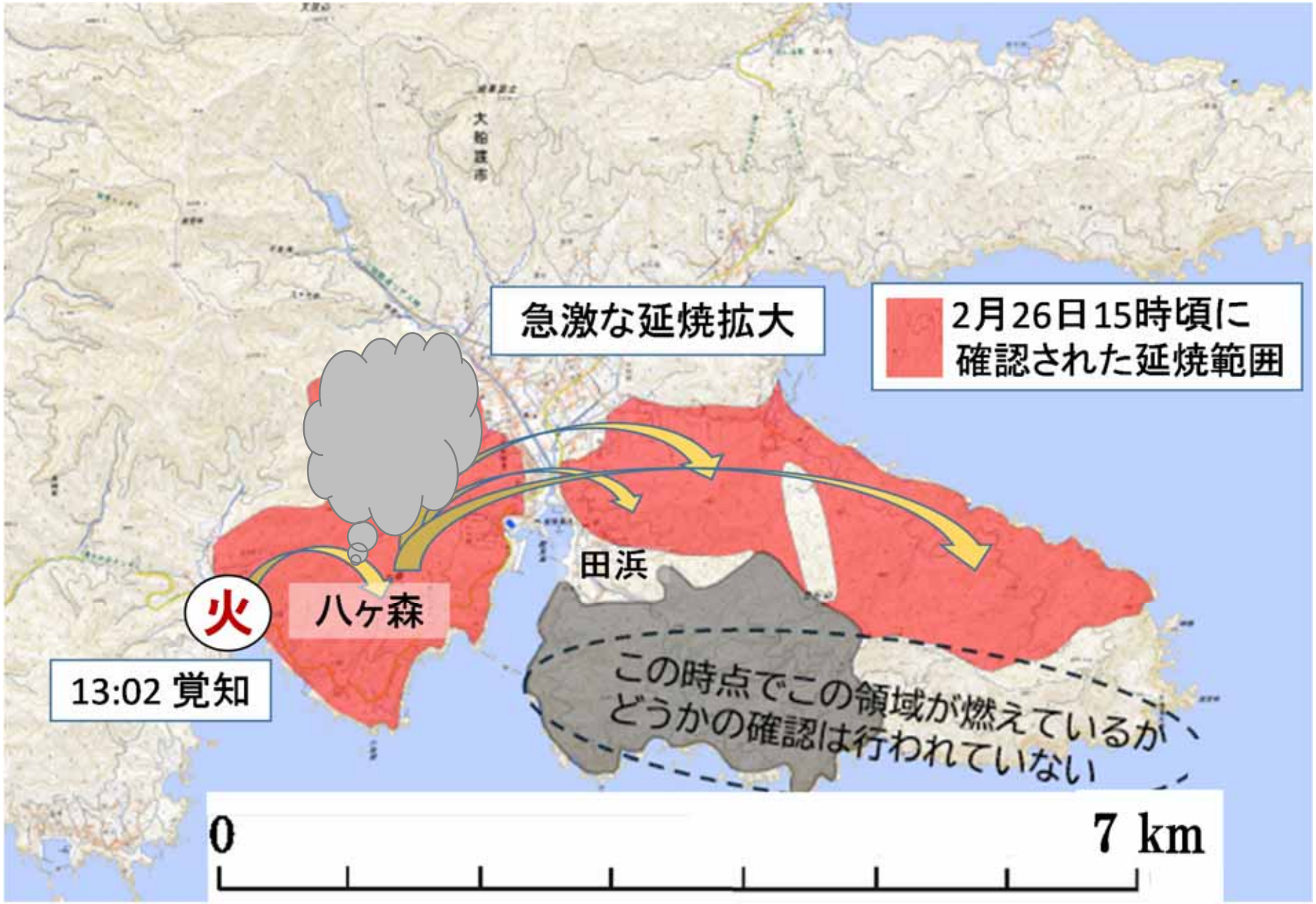
26日午後１時頃、岩手県大船渡市赤崎町で山林火災が発生して燃え広がり、市は873世帯・2114人に避難指示を出した。焼損した住宅などは80棟超に上ったとみられ、焼失面積は600ヘクタール以上に及ぶという。県は同市に災害救助法の適用を決め、陸上自衛隊に災害派遣を要請。県と市は災害対策本部を設置した。

火災発生直後の八ケ森上空の入道雲のような火災積雲

※京都大学防災研究所・峠嘉哉特定准教授撮影（2月26日13時57分）



1923年関東大震災時の入道雲状の火災積雲

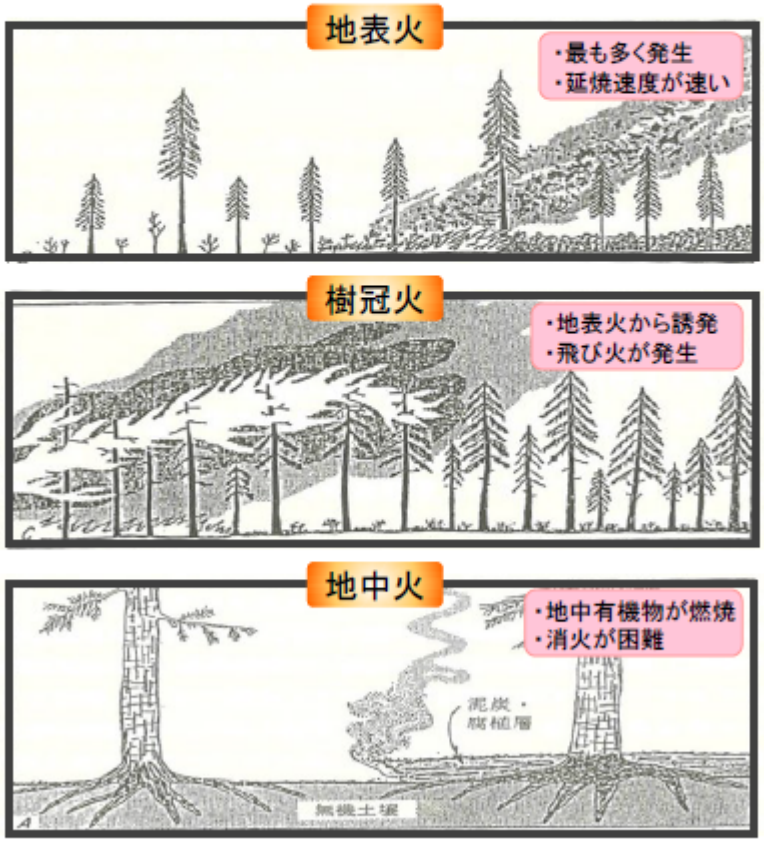


2月26日15時頃には延焼は東西約7km周長約30kmの範囲に延焼

林野火災の種類と発生しやすい森林

○ 我が国の林野火災においては地表火（ちひょうか）が多いが、樹冠火（じゅかんか）に拡大すると、被害面積が大きくなる可能性がある。

■ 林野火災の種類



林野弘済会「林野火災対策の解説」より作成

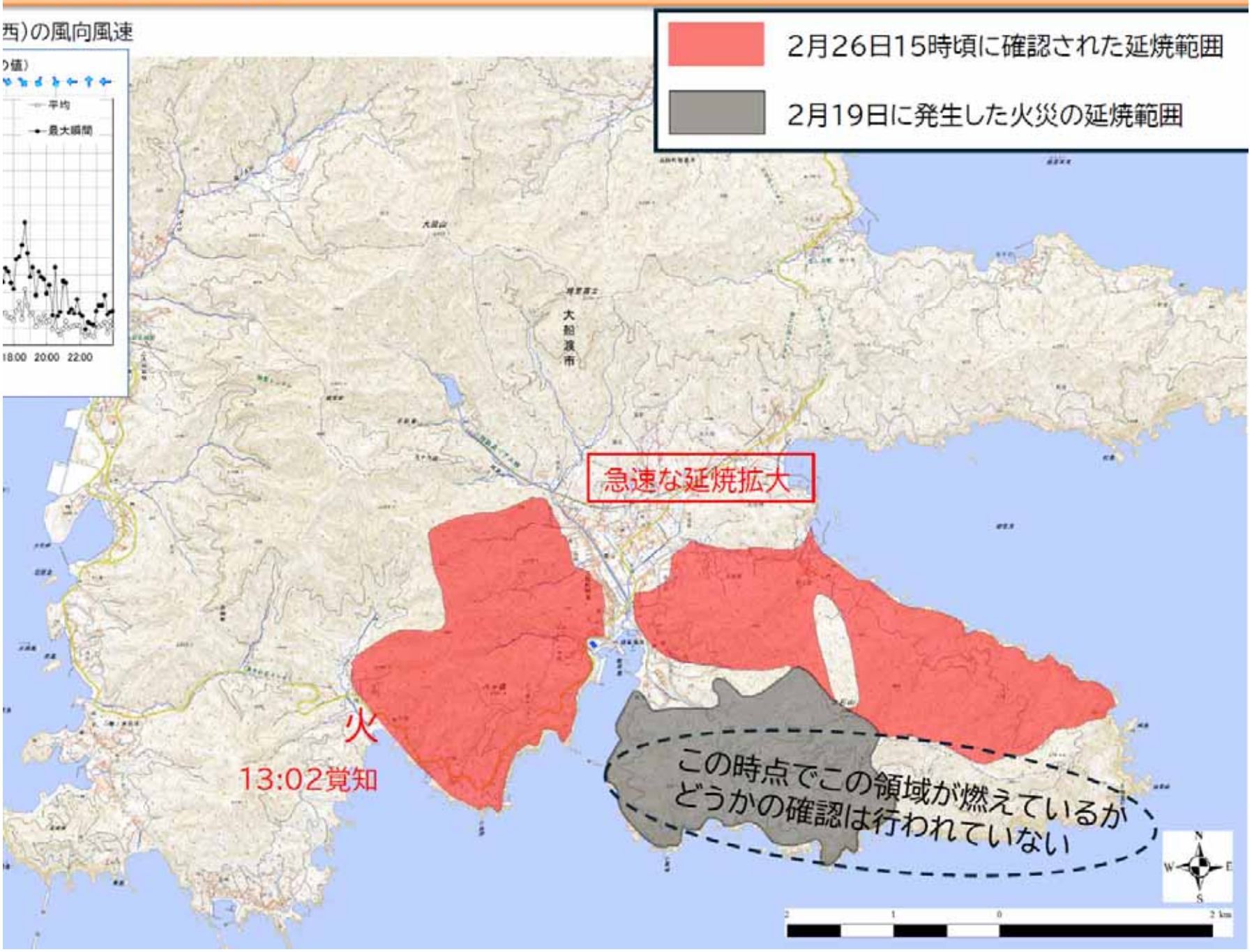
■ 林野火災の種類と樹木の関係

- 我が国は冬場に空気が乾燥するため、林野火災のリスクが高まる。
- この時期に落葉し樹冠に隙間がある**落葉樹は林床にある落葉落枝が乾燥しやすいので、林野火災の発生危険度が高いといえる。**（地表火が起こる可能性）
- 一方、強風や傾斜などで**火の勢いが増した場合、樹冠に葉や小枝が多い常緑樹の方が燃えやすいといえる。**（樹冠火が起きやすい）

樹冠火によって枝葉が完全に失われた八ヶ森の林の様子

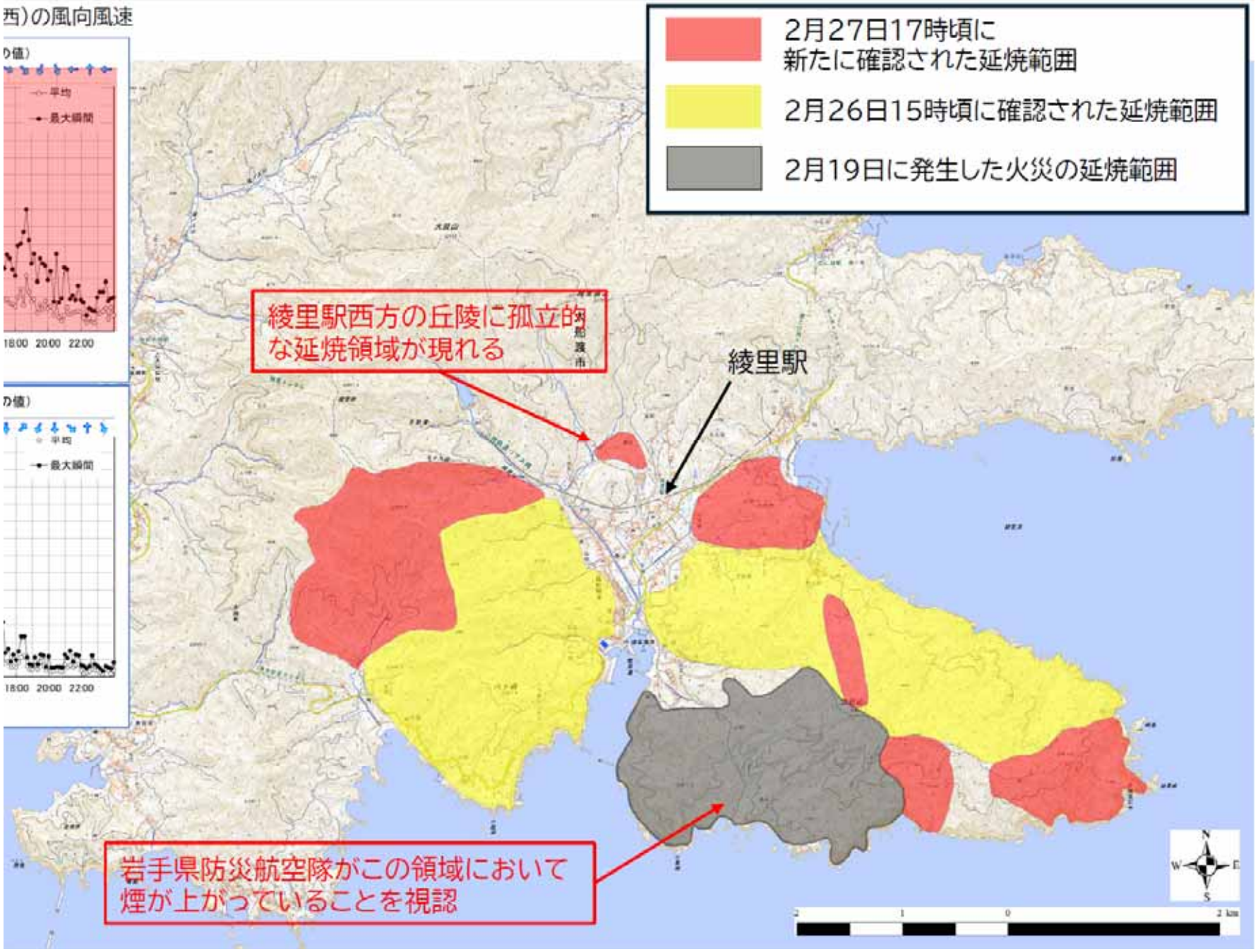
※ 八ヶ森で筆者撮影（2025年6月3日）

2月26日15時頃

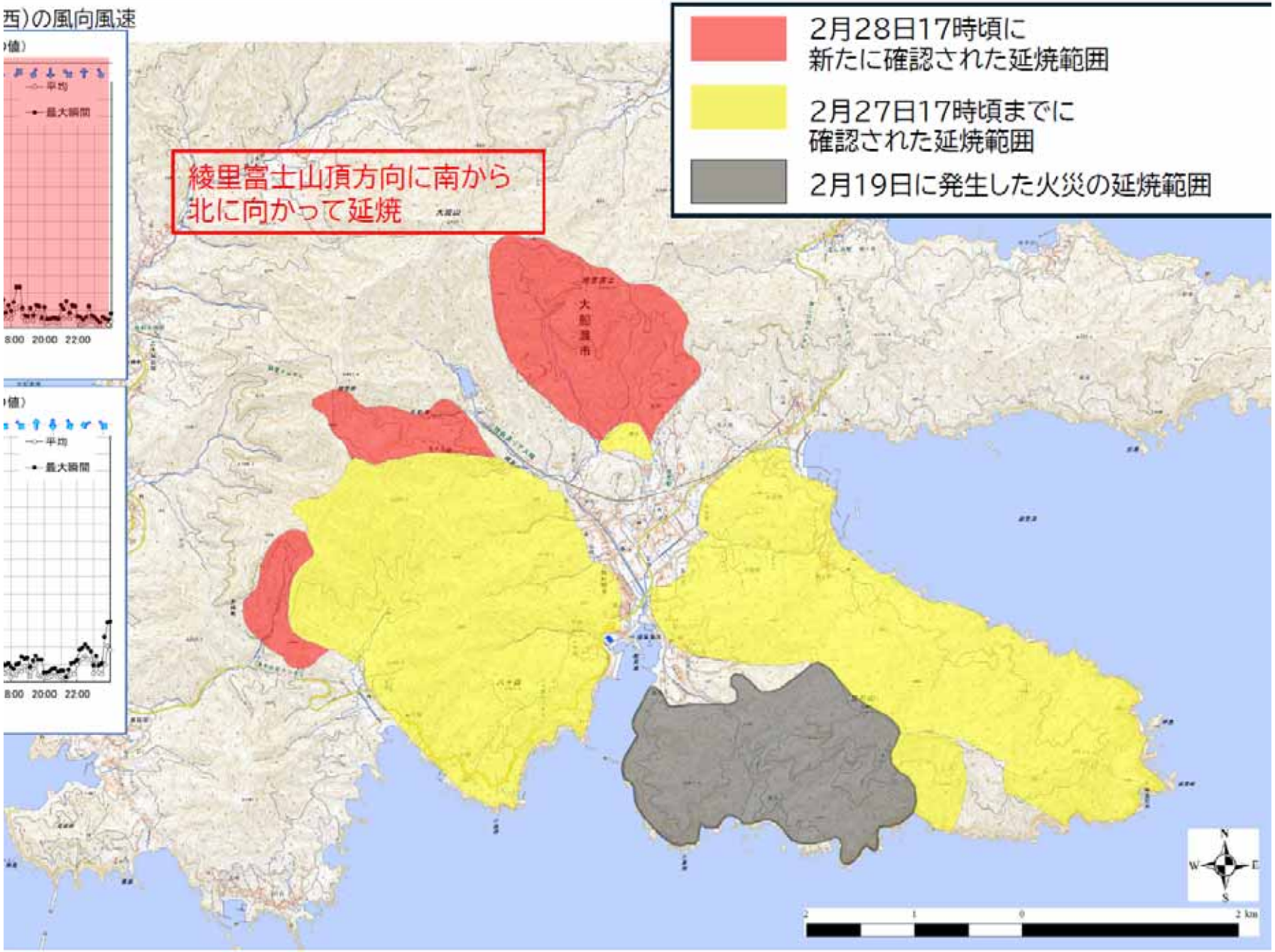

西)の風向風速
平均
最大瞬間
18:00 20:00 22:00
2月26日15時頃に確認された延焼範囲
2月19日に発生した火災の延焼範囲
大船渡市
急速な延焼拡大
火
13:02覚知
この時点でこの領域が燃えているか
どうかの確認は行われていない

:2月27日17時頃

西)の風向風速

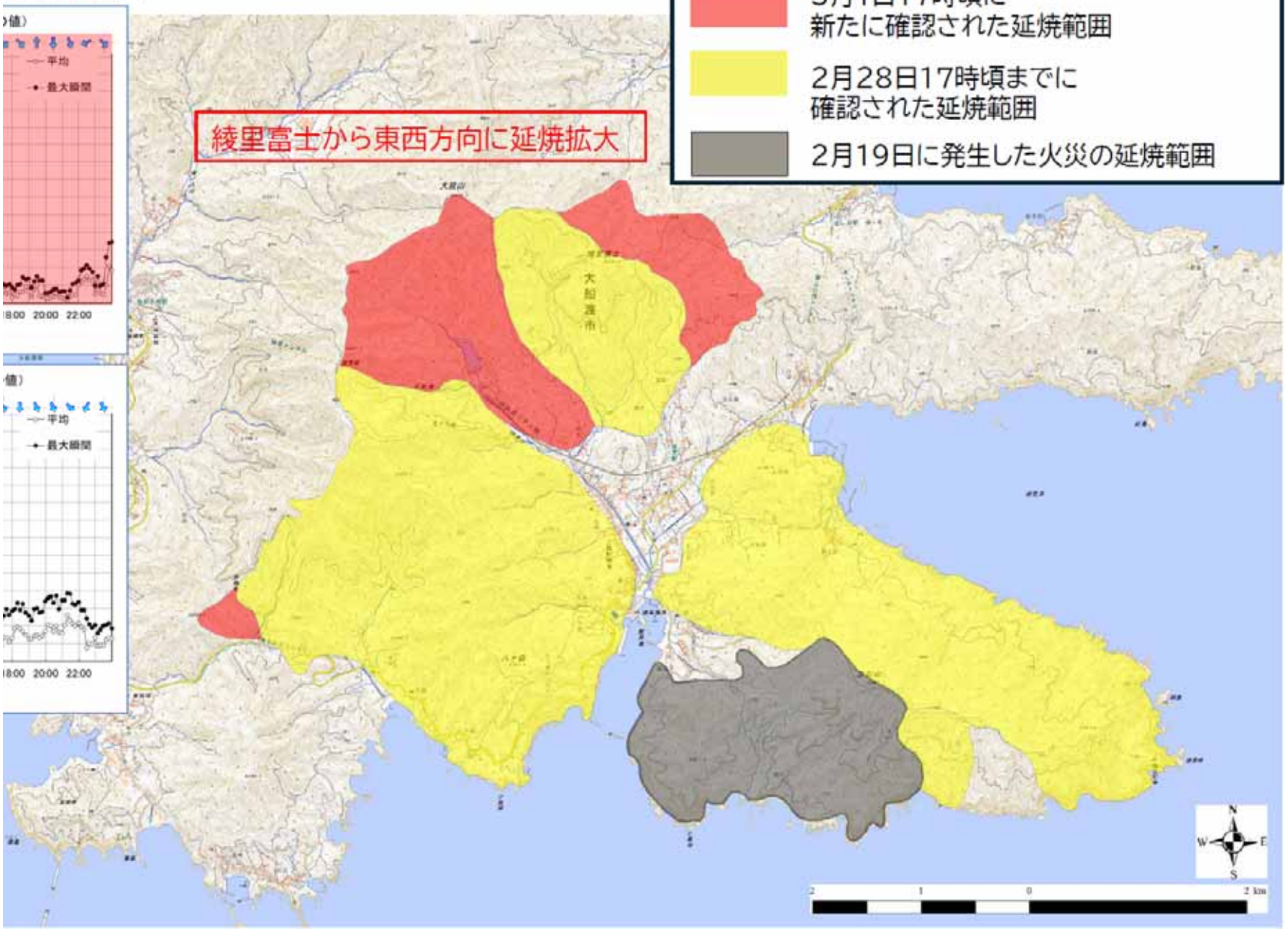


2月28日17時頃


西)の風向風速
値)
平均
最大瞬間
8:00 20:00 22:00
値)
平均
最大瞬間
8:00 20:00 22:00
綾里富士山頂方向に南から
北に向かって延焼
2月28日17時頃に
新たに確認された延焼範囲
2月27日17時頃までに
確認された延焼範囲
2月19日に発生した火災の延焼範囲
大船渡市
N
W
E
S
2
1
0
2 km

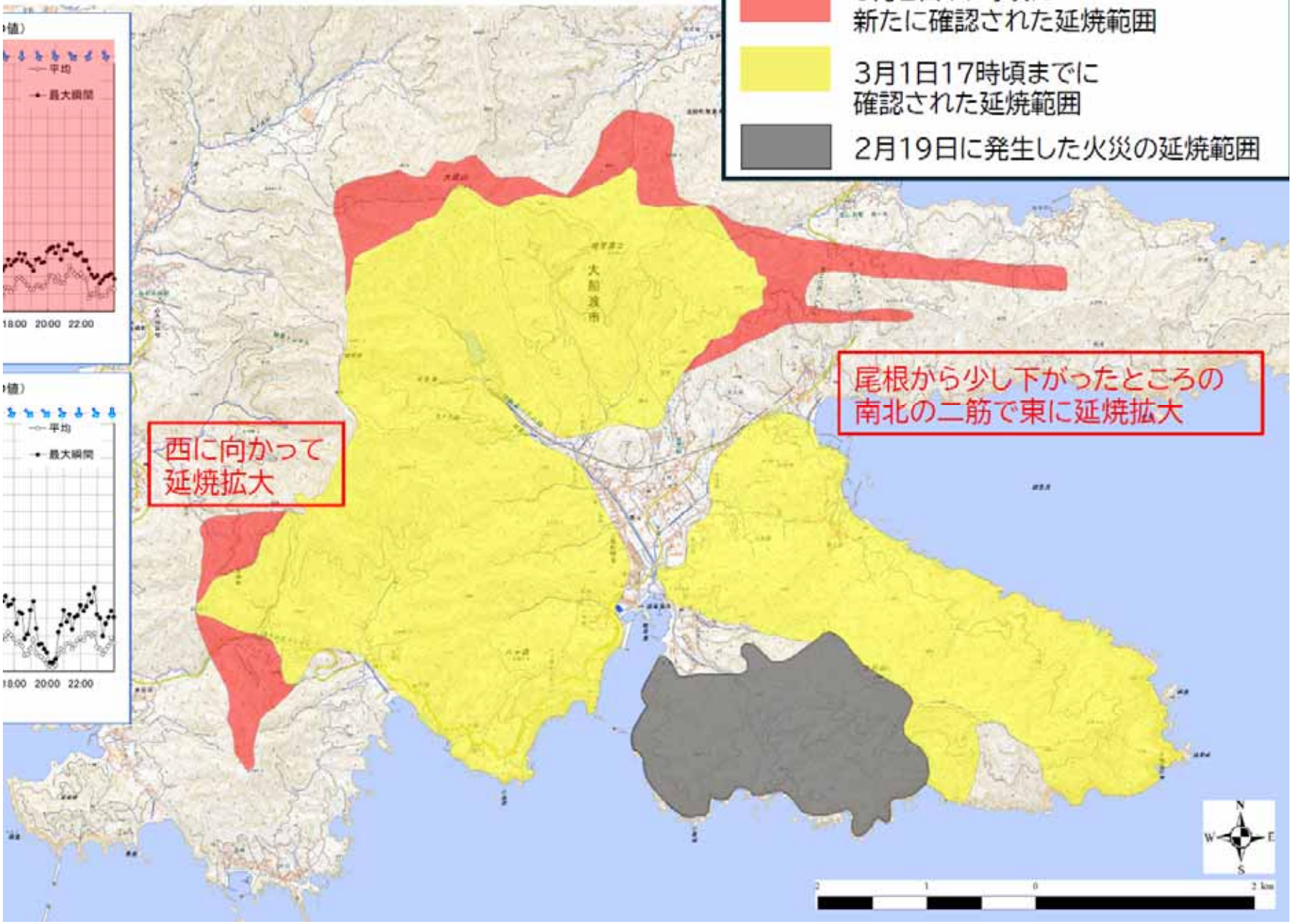
3月1日17時頃

西)の風向風速

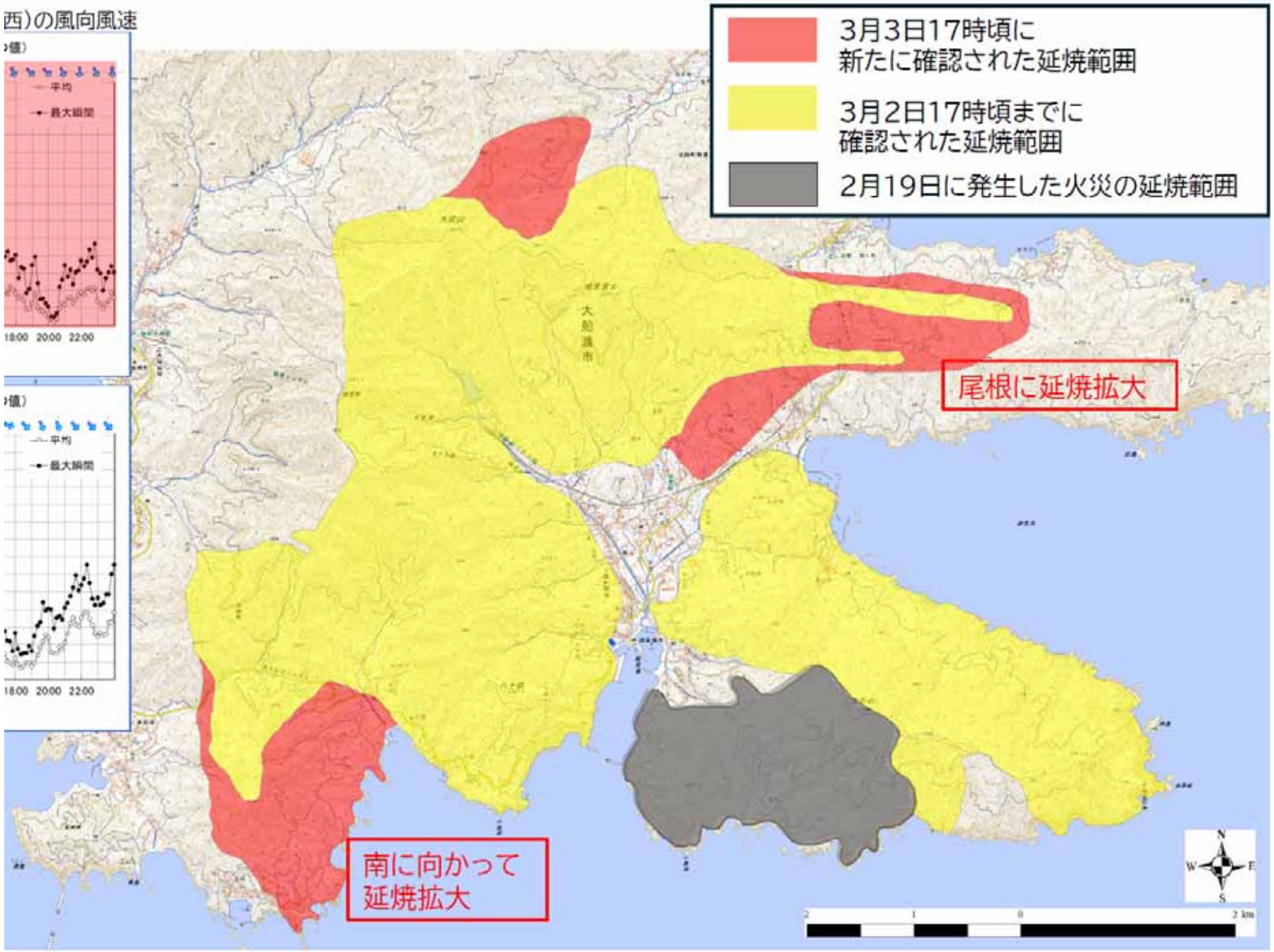


3月2日17時頃

西)の風向風速

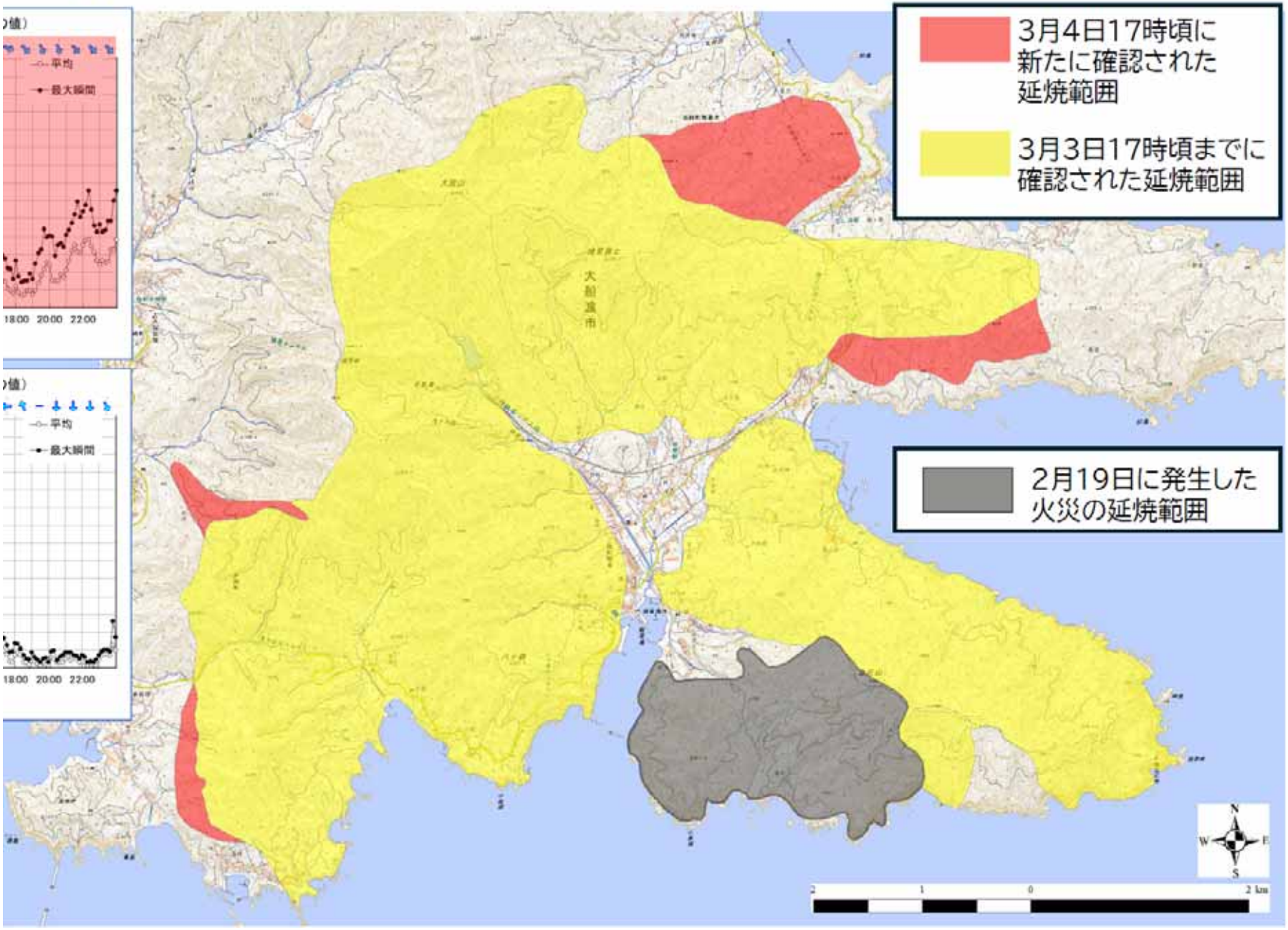


:3月3日17時頃

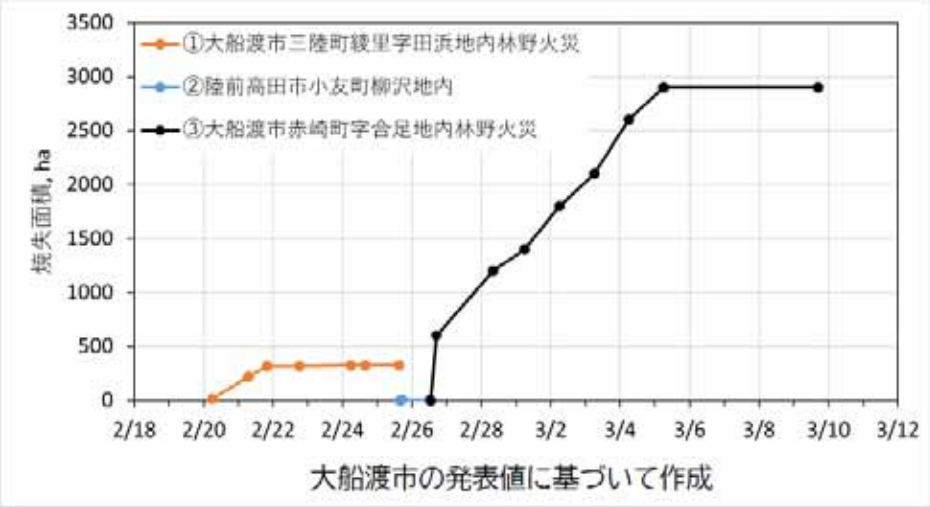

西)の風向風速
値)
平均
最大瞬間
18:00 20:00 22:00
値)
平均
最大瞬間
18:00 20:00 22:00
3月3日17時頃に
新たに確認された延焼範囲
3月2日17時頃までに
確認された延焼範囲
2月19日に発生した火災の延焼範囲
尾根に延焼拡大
南に向かって
延焼拡大
N
W
E
S
2
1
0
2 km

3月4日17時頃

西)の風向風速



林野火災延焼面積の時間推移：2月26日発生の火災の前に発生した火災との比較



2月26日発生の火災は，とりわけ1日目が延焼拡大が急激だった．

［岩手県防災航空隊が目視により描いた図から作成したもの］

2月19日発生大船渡市三陸町綾里地内火災概要

（1） 火災発生日時等
- ○ 発生日時：令和7年2月19日　調査中
- ○ 覚知日時：令和7年2月19日 11時55分
- ○ 鎮圧日時：令和7年2月25日 15時05分

（2） 出火場所
- ○ 大船渡市三陸町綾里字田浜下地内

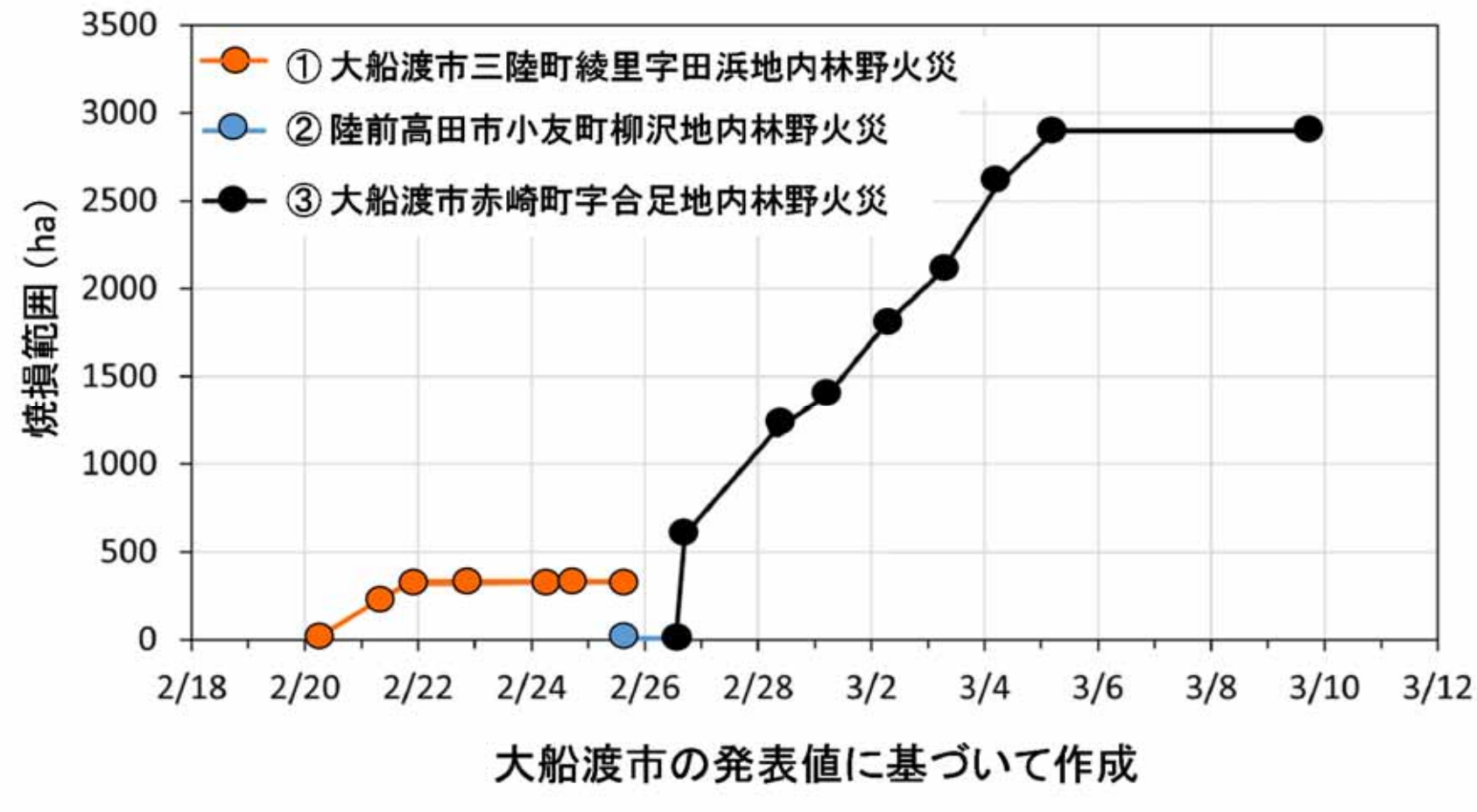
（3） 出火原因　　調査中
（4） 林野被害　　約324ha の範囲内に焼損地点が点在
（5） 人的被害　　なし
（6） 建物被害　　なし

2月25日発生陸前高田市小友地内火災概要

（1） 火災発生日時等
- ○ 発生日時：調査中
- ○ 覚知日時：令和7年2月25日 15時19分
- ○ 鎮圧日時：令和7年2月26日 12時00分
- ○ 鎮火日時：令和7年3月11日　10時30分

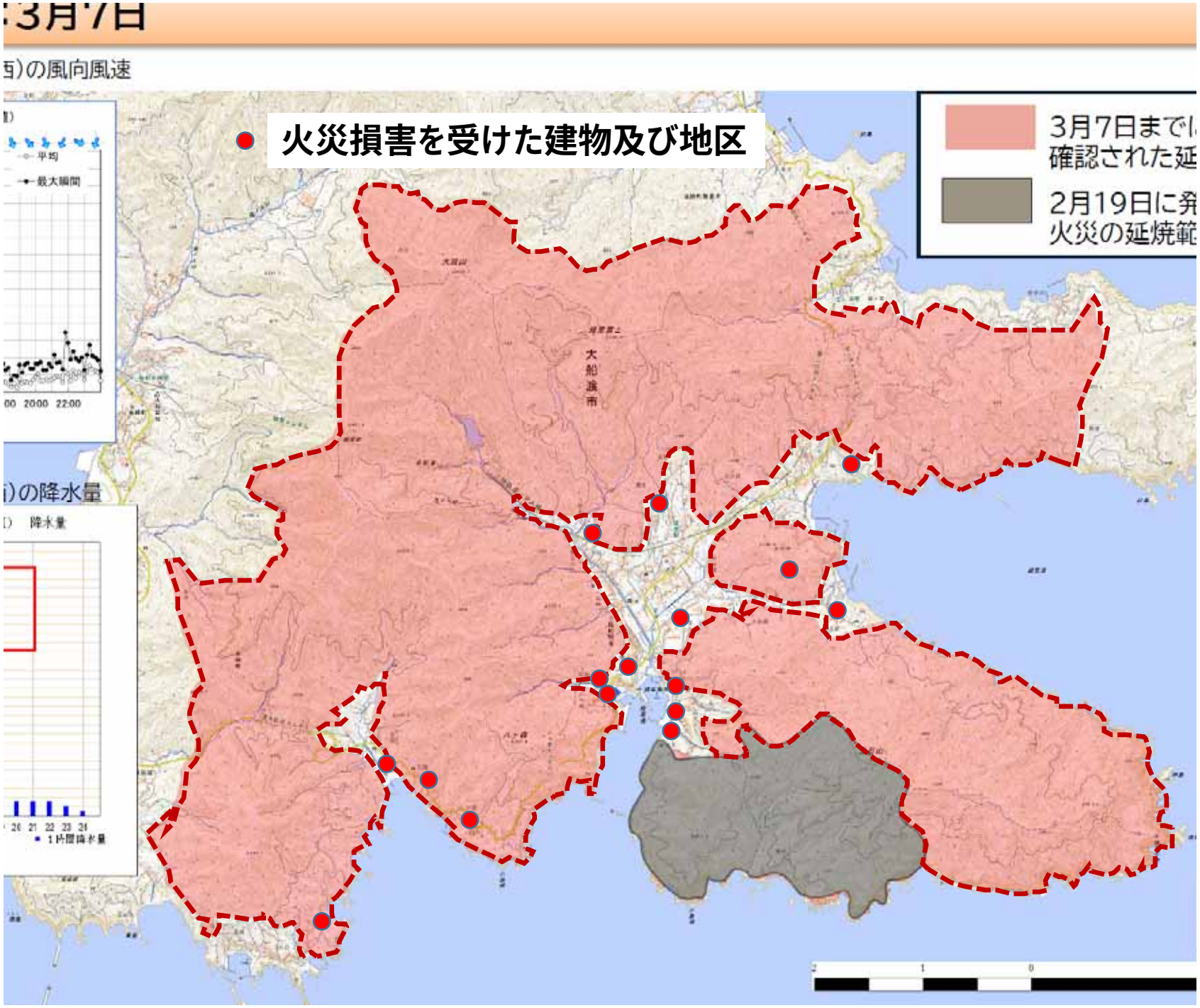
（2） 出火場所
- ○ 陸前高田市小友町字柳沢地内

（3） 出火原因　　調査中
（4） 林野被害　　約8ha
（5） 人的被害　　なし
（6） 建物被害　　なし



大船渡市で発生した3件の林野火災の延焼面積の時間推移

© 2025 Google
© 2025 Google


3月7日
)の風向風速
平均
最大瞬間
)の降水量
降水量
1時間降水量
火災損害を受けた建物及び地区
3月7日までに
確認された延
2月19日に発
火災の延焼範
大船渡市

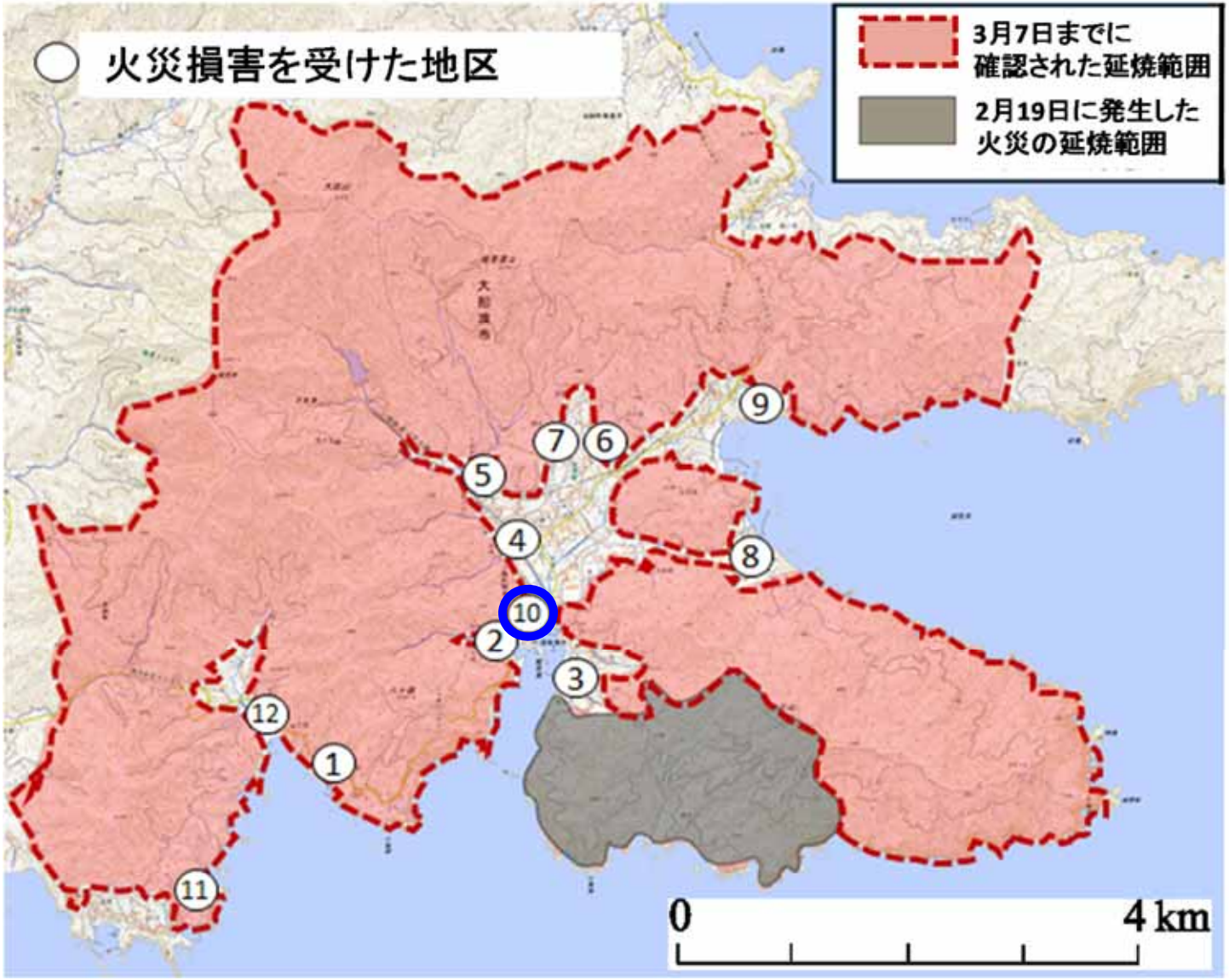
平地の集落に迫る林野火災

読売新聞オンライン（https://www.yomiuri.co.jp/media/2025/02/20250226-OYT1I50162-1.jpg?type=large）　より引用

大船渡市林野火災による地区別の建物等の焼損状況

※令和7年2月26日に発生した大船渡市における林野火災に係る 消防庁長官の火災原因調査報告書[7] より引用

町別	地域名	住家		住家以外		合計棟数
		全焼	半焼以下	全焼	半焼以下	
三陸町綾里	① 小路	11	3	42	2	58
	② 石浜	5	3	12	2	22
	③ 田浜	7	4	6	0	17
	④ 岩崎下	1	3	5	0	9
	⑤ 野形	0	0	1	0	1
	⑥ 宮野東	1	2	5	1	9
	⑦ 宮野西	0	0	0	1	1
	⑧ 野々前	1	1	11	0	13
	⑨ 白浜	0	0	3	0	3
	⑩ 綾里港	15	11	12	3	41
赤崎町	⑪ 外口	13	9	14	5	41
	⑫ 合足	0	0	10	1	11
合計		54	36	121	15	226



大船渡市林野火災によって建物焼損被害を受けた地区

※消防庁長官の火災原因調査報告書より筆者作成

41棟の延焼被害が生じた綾里港地区の焼け跡の状況

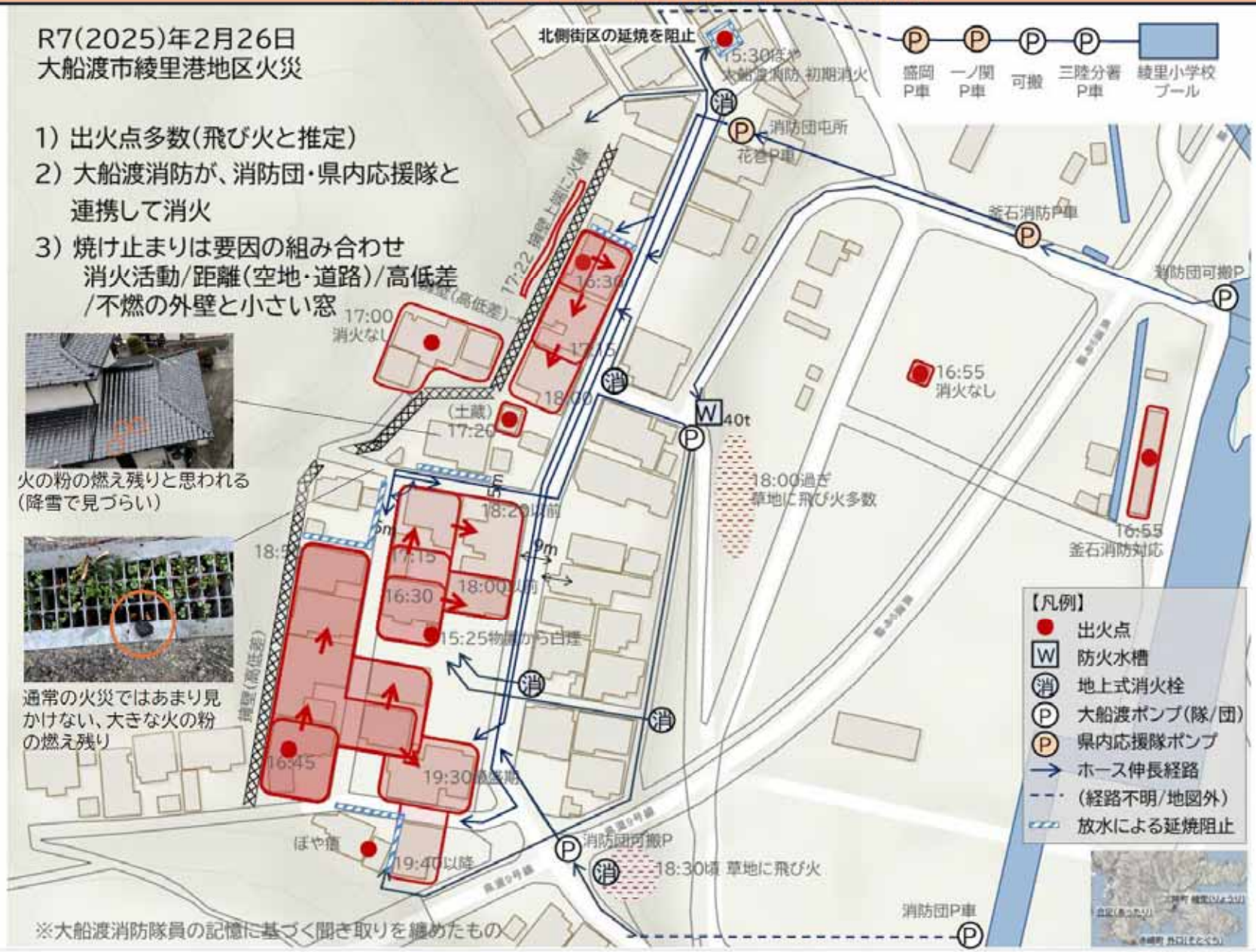
※筆者撮影（2025年6月3日）

立入禁止

建物火災に対する初期段階の消防活動

R7(2025)年2月26日
大船渡市綾里港地区火災

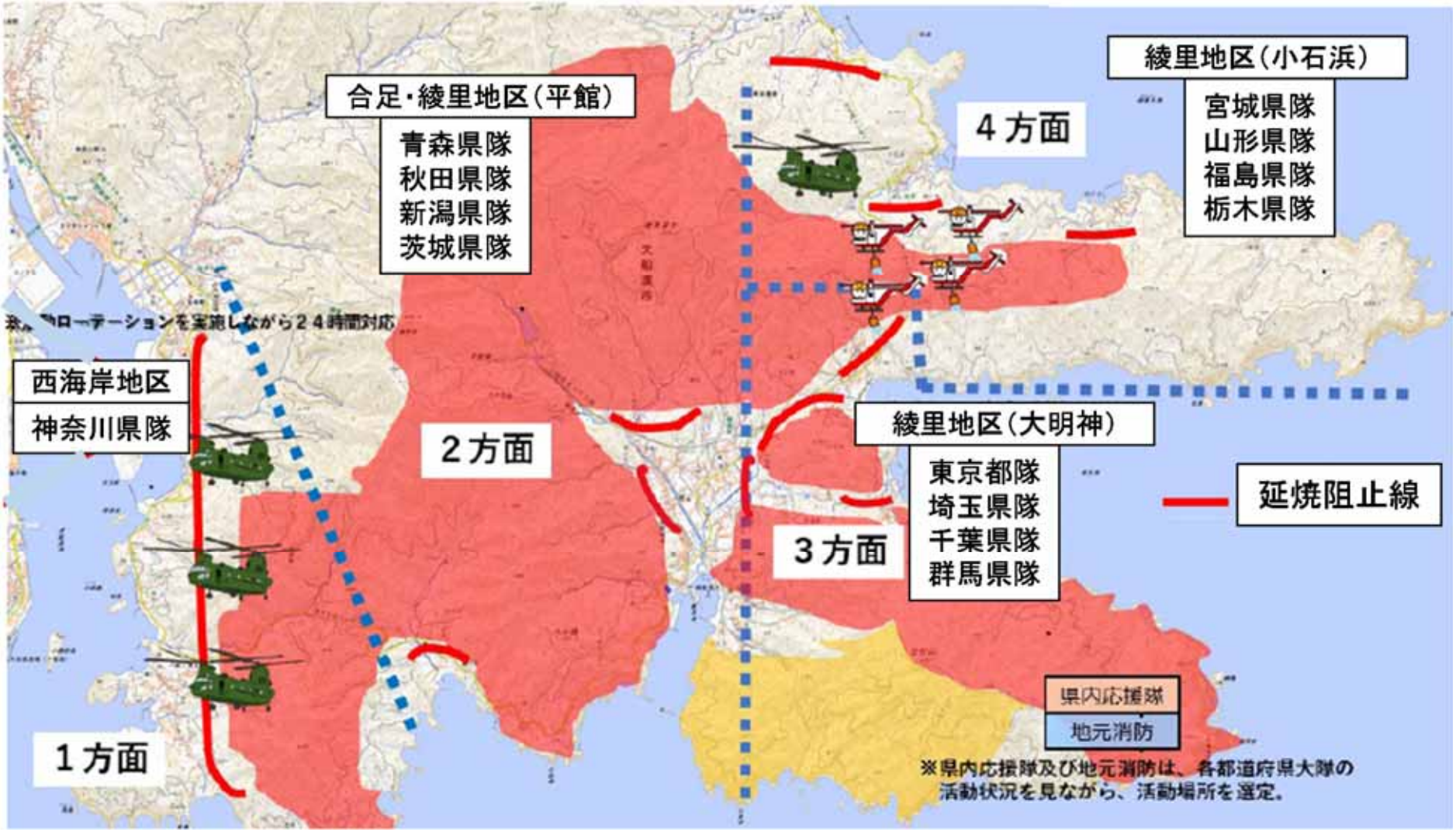
1) 出火点多数(飛び火と推定)
2) 大船渡消防が、消防団・県内応援隊と連携して消火
3) 焼け止まりは要因の組み合わせ
消火活動/距離(空地・道路)/高低差/不燃の外壁と小さい窓



火の粉の燃え残りと思われる
(降雪で見づらい)

通常の火災ではあまり見かけない、大きな火の粉の燃え残り

※大船渡消防隊員の記憶に基づく聞き取りを纏めたもの



緊急消防援助隊の消防部隊の配置

第1～第4方面に分け方面毎に都道府県大隊及び指揮支援隊を配置

※「大船渡市林野火災の消防活動の概要」より引用

海水利用型消防水利システム等を活用しての放水

（3月4日、大船渡市西側海岸地区　横浜市消防局提供）

大船渡市林野火災を踏まえた消防防災対策のあり方

「大船渡市林野火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会」の6回にわたる検討結果を踏まえて、検討会報告書では大船渡市林野火災における消防活動等を踏まえた消防防災対策のありかたについて以下の4つの軸を中心に課題を整理している。

(1) 林野火災における予防・警報のあり方

(2) 林野火災に対応できる消防防災体制のあり方

(3) 大規模林野火災に備えた多様な技術の活用・開発

(4) 災害復旧及び二次災害の防止活動

(1) 林野火災における予防･警報のあり方

- たき火の届出制度や火入れの許可制度を通じたたき火や火入れの把握
- 林野火災の予防上危険な気象状況になった際の周知や火の取扱いへの注意喚起
- 林野火災注意報や消防法に基づく林野火災の予防を目的とした林野火災警報の的確な発令
- 防火指導の強化や火の使用制限の徹底などを通じた林野火災予防の実効性の向上
- 広報･啓発の対象に応じた効果的な手法を用いた危険性が高まる時季における戦略的かつ幅広い広報･啓発活動

(2) 林野火災に対応できる消防防災体制のあり方

- 刻々と変化する延焼状況などの的確な情報把握、早期の応援要請･受援体制の確立
- 長期間の消火活動に必要な体制、消防水利の確保や強風下における飛び火警戒などの陸上部隊の消防活動の強化
- 消火効率を高める航空部隊の運用、陸上･航空部隊間や応援部隊による地元消防本部･消防団との連携
- 大規模林野火災に対処できる消防団の体制強化
- 急激な延焼拡大に対応した速やかな避難指示等の発令･周知等による迅速な住民避難

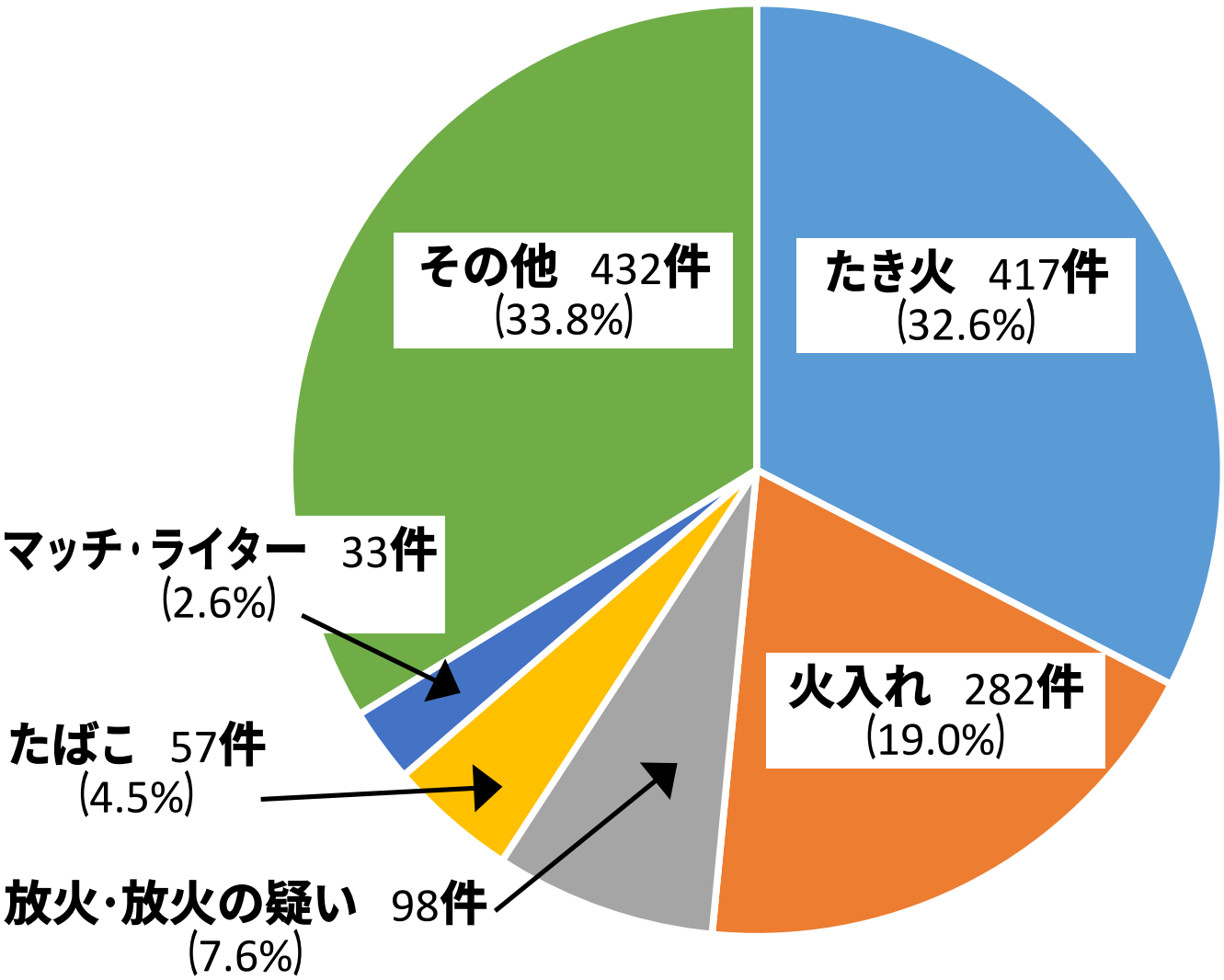
(3) 大規模林野火災に備えた多様な技術の活用・開発

- 諸外国や消防以外の分野で使用される新技術・新装備等の活用事例を踏まえた研究推進
- 延焼シミュレーション技術の研究開発
- 消火薬剤の効果的な使用方法や健康・環境への影響に関する評価方法等の検討

⑷ 災害復旧及び二次災害の防止活動

- 被害を受けた森林についての被害状況の把握と迅速な復旧のための日頃からの森林所有者や境界についての情報整理、被災後における広域的な連携体制の構築

- 鎮火後の森林における土砂流出等の土砂災害防止のための治山対策としての山地の荒廃状況に関する調査･点検、治山施設の整備



林野火災の出火原因 (2019年～2023年の5年間の平均)

※ 総務省消防庁「林野火災への備え」を基に作成

過去5年間に火災警報を発令した実績がある消防本部と発令状況

	発令回数	火災気象通報を受けずに発令した回数	発令回数（延べ日数）
苫小牧市消防本部（北海道）	7回	0	28日
福島市消防本部（福島県）	331回	0	550日
魚沼市消防本部（新潟県）	1回	0	1日
南アルプス市消防本部（山梨県）	15回	0	7日 (2024年)
高山市消防本部（岐阜県）	16回	0	27日
多治見市消防本部（岐阜県）	3回	0	3日
飛騨市消防本部（岐阜県）	3回	0	3日

※2023年以前の記録がないため

林野火災注意報と大船渡市の林野火災警報の創設

林野火災注意報の発令基準について

林野火災注意報を発令するのは、以下の①または②のいずれかの条件に該当する場合とし、またその発令期間は1～5月の期間としている。

① 前3日間の合計降水量が1mm以下、
　かつ前30日間の合計降水量が30mm以下

② 前3日間の合計降水量が1mm以下、
　かつ乾燥注意報が発表

※なお、当日に降水が見込まれる場合や積雪がある場合には発令しないことも可能とし、地域の気象特性や社会･経済活動の状況等に応じて適宜発令指標に調整を加えることも可能とする。

林野火災警報の発令基準について

林野火災警報を発令基準は、上記の林野火災注意報の発令基準である①もしくは②に加え、③強風注意報が発表された場合に発令する。

ご清聴ありがとうございました